

SPORTS CULTURAL STUDIES

科学的なアプローチで
スポーツ文化と向き合う力を

スポーツ 文化専攻



競技スポーツ、子どものスポーツ、アダプテッド・スポーツ、
アウトドア活動、野外環境教育などのスポーツ文化を科学的に探究・理解して
地域の人びとと共有し豊かな暮らしを表現できる人材を育成します

スポーツ・
コーチング
科学コース

多様なスポーツ体験と学びで
地域の未来を拓く

アウトドア・
ライフコース

アウトドア、野外教育、環境教育を
北海道で学ぶ

スポーツ文化専攻 / 4年間のスキルアップ

1年

スポーツ・文化の
学びスタート

スポーツ文化の担い手としての
基礎となるスポーツ科目やス
ポーツ科学に関する知識・理
論を広く学びます。

2年

コースとしての
特色をより深く学ぶ

スポーツ文化の専門的な科目
を多く受講します。コースの特
色に沿った知識を獲得し、経
験を通じて深く学びます。

3年

専門性をより高めて
実践的な学びへ

理論や指導方法に関する高度
な科目を受講します。地域
において実践経験を積み上げ
ていきます。

4年

理論と実践をつなぐ
集大成へ

これまで獲得した専門知識と、
地域実践で培った指導力を結
びつけ、卒業論文として集約
していきます。

専攻専門科目

【専攻共通科目】

- 生理学・運動生理学
- 衛生学 ■ スポーツ社会学
- スポーツ科学研究法
- 器械運動 ■ 陸上競技
- 水泳 ■ ダンス
- アルペンスキー
- クロスカントリースキー
- 剣道 ■ 柔道
- 各種ボールゲーム
- 自然体験活動 他

コース科目

【スポーツ・コーチング科学コース】

- スポーツ運動学特講
- バイオメカニクス
- 健康体力医科学
- スポーツ・コーチング論
- スポーツ教育学
- 臨床スポーツ医学
- アダプテッド・スポーツ論
- 発育・発達・ライフステージに応じたスポーツ指導
- スポーツ指導法演習 他

【アウトドア・ライフコース】

- 自然誌の読み解き
- 野山のフィールド経験
- 冬のフィールド経験
- 環境社会学
- 自然体験プログラム実習
- インタープリテーション
- リスクマネジメント
- 野外環境教育指導法
- アウトドア・ラーニング・プロセス 他
- 環境問題と科学
- 水辺のフィールド経験
- 里のフィールド経験
- 野外救急法



スポーツ心理学 研究室

安部 久貴 Hisataka Ambe

私はサッカーの指導をしながら、「スポーツと心」の関
係について研究しています。その内容は、「どのよう
な練習をすればパフォーマンスが効果的に向上する
のだろうか?」「指導者からのどのような言葉かけが選
手を動機づけるのだろうか?」「リーダーは成果をあげ
るために、どのように振る舞う必要があるのだろうか?」
など多岐にわたります。スポーツの実践を通じて感じ
た疑問を研究し、その結果をまた実践で試す。この
サイクルこそが、成長につながると考えています。ス
ポーツ心理の理論と実践を通じて、一緒に成長して
いきましょう。



スポーツ心理の
理論と実践が成長を促す



アダプテッド・スポーツ 研究室

大山 祐太 Yuta Oyama

アダプテッド・スポーツとは、実践者の心身の状態に
adapted=適合させられたスポーツの総称です。「障
害」という概念は個人が社会と接した際に困難が生
じる状態と言えます。個人の心身機能や構造は変え
られなくとも、用具やルールという環境を修正するこ
とによって誰もがスポーツを楽しめるようになります。
誰に対しても根拠に基づいた指導ができる、地域で
スポーツの魅力を発信できる、そんな指導者を目標
しませんか?真面目に遊ぼう!



君の工夫と遊び心が、
誰かの楽しいを創る

※スポーツ文化専攻の研究室への所属は、教員の退職や所属人数等により、希望に添えない場合があります。



ゲーム分析論研究室

奥田 知靖 Tomoyasu Okuda

当研究室では、子どもの年代にどのようなトレーニングをすれば、将来のボールゲーム能力を開発できるかを研究テーマとしています。子どもには無限の可能性がありますが、発育発達途中にあるため、その指導においては大人のトレーニング内容のコピーでなく、子どもに適した指導内容・方法が必要です。ボールゲームにおける戦術行動の分析やスキルの評価を通じて、子どものボールゲーム能力の発達を促進させ、将来的に器用な身のこなしや創造的なプレーに発展するトレーニングプログラムや指導方法について追究していきます。



子どものボールゲームの未来をひらく！



スポーツバイオメカニクス研究室

小林 育斗 Yasuto Kobayashi

スポーツバイオメカニクスとは、スポーツ時の身体の動きを機器で計測して、動きへの理解を深めていく研究領域です。しかし、計測するだけで知りたいことが分かるわけではありません。ある物理学者は「ふしぎだと思うこと」を「科学の芽」、「最後になぞがとけること」を「科学の花」と例えました。そして、芽から花につながる「科学の茎」を「よく観察してたしかめ、そして考えること」と述べています。つまり、計測で得た結果について、どう考えるか？が大切です。ぜひ一緒に、動作分析で「科学の茎」を育ててみませんか？



動作分析で“科学の茎”を育てよう！



スポーツ運動学研究室

小倉 晃布 Akinobu Ogura

近年のスポーツ科学の発展により、われわれ人間の運動は精密かつ客観的なデータで詳細に示すことが可能になりました。しかし、実際のスポーツ現場に目を向けると、「コツがわかった」や「もう少しここを意識して」というように、数値やデータではわからない自己の“動く感じ”（動感）が常に問題になっていることがわかります。スポーツ運動学とは、この“動感”という概念を主軸にしてスポーツ運動の技術や上達、さらにはスポーツ指導の本質を探究する学問です。この学問を通して自己の“動感”について改めて考えてみませんか？



自己の“動く感じ”を研究してみませんか？



スポーツ医科学研究室

榎 善成 Yoshinari Sakaki

スポーツにおける競技力向上や、スポーツを通じた健康増進のためには、“ケガ”をしないことが不可欠です。スポーツ医科学研究室では、生涯スポーツを実現するための傷害予防を目指して、傷害の実態調査や筋肉の機能・形態を中心とした身体特性の解明、傷害予防プログラムの構築・効果検証をテーマに研究活動を行っています。“ケガ”なくスポーツ活動を楽しみ、心身にわたる健康の保持増進に貢献するために、ともに学びを深めていきましょう。



ケガをしにくい身体の機能を解明しよう！

令和6年3月退職予定



体育学研究室

佐川 正人 Masato Sagawa

体育やスポーツにおけるトレーニングを通して、巧みな技、速い動作、力強い動きなどが出せるようになることはよく知られていますね。しかし、そのような運動を引き出すための意思や意欲などの“心のエネルギー”のこと、そのコントロール方法などについてはどうでしょうか。“心のエネルギー”は、目標とする運動の獲得や持っている能力を発揮するときに大切な働きをします。さあ、体育やスポーツの場面で自分自身の身体（からだ）を意のままに操ってみませんか。



体育やスポーツにおける
“心のエネルギー”

令和6年3月退職予定



パーソナルコーチング 研究室

杉山 喜一 Kiichi Sugiyama

コーチングとは、目標達成に必要な知識、スキル、ツールが何であるかを棚卸しし、個別対応に備えさせるプロセスであるといわれています。パーソナルコーチングでは個々のアスリートそれぞれが豊かで充実したスポーツライフの構築にむけて明確な目標を実現させていくことを重要視します。具体的には競技力向上を目的に、心技体にかかる要因やアスリートを取り巻く様々な環境要因に焦点をあて、スポーツ科学分野で得られた知見を活かして、個々の能力を最大限に引き出すための効果的なトレーニング方法やその指導法を学びます。



目標に向けて自己の可能性に
チャレンジする

令和8年3月退職予定



体力学研究室

志手 典之 Noriyuki Shide

研究面では、スポーツ生理学の観点から、成長期における体力やアスリートのパフォーマンス向上を探求しています。「成長期における適度な運動刺激とは？より高度な技術を獲得するための体力要素は？シーズン中のコンディション維持をどうするか？」などを科学的な視点から考えてみませんか。
また、専門の実技では、バレーボールを通して、バレーボール教室の開催や、市内のスポーツクラブとコラボして「バレー塾」を展開し、地域の活性化に取り組んでいます。



体力を科学の視点で
解明しよう！

運動生理学研究室

鈴木 淳一 Junichi Suzuki

運動生理学分野で、低酸素や高圧環境が運動能力に及ぼす影響を研究しています。高校までの学習とは違い大学は自ら学ぶところで、やる気次第で人生を一変することができる場所です。一般に、専門領域に特化した人は「I(アイ)型」、幅広い知識・経験を有する人は「T(ティー)型」と呼ばれます。本校では専門や教養科目の他に、学科共通科目や地域連携科目の習得ができ、幅広い知識・経験を得ることができます。つまり「T」の横棒を長くすることができるのです。幅広く学び、深く疑問を探究することの重要性は、2500年前の「論語」にも記されています。既知の事実を疑い、新事実を創造する力を身につけましょう！



自ら学び
「T型」人間を目指そう！



健康体力医学研究室

森田 憲輝 Noriteru Morita

健康体力医学研究室は、スポーツをした時のカラダとアタマの変化、そしてトレーニングを継続したことの影響を深く理解することを目指しています。ゼミでは現在「運動・スポーツはアタマに良いのか?」「運動・スポーツはどんなアタマの使い方をよくするか?」というテーマを勉強・研究しています。先輩学生たちは運動した時のカラダの反応に関する学問分野である「生理学」や「運動生理学」の専門知識をまずは勉強して、時には実験しながら運動やスポーツのアタマへの効果について理解を深めています。

カラダとアタマへの
スポーツの影響を解明しよう!



環境教育学研究室

能條 歩 Ayumu Nojo

「二十一世紀は環境の世紀」といわれ、「持続可能な社会」というキーワードもあちこちで見られます。これらは全て「人と自然の望ましいあり方を考える」ことがベースになっています。このためには、まず「自然から何をどう学ぶか」を考え、実感のこもる教育を構築し実践する必要があります。本研究室では、行政・企業・学会における研究活動や普及事業などを通して自然体験教育の実践や研究の中に身を置き、自然・環境・自然災害・SDGsなどについてたくさんのことを学んでもらうようにしています。

人と自然をつなぐ教育



スポーツ教育学研究室

山本 理人 Rihito Yamamoto

スポーツ教育学研究室では、「スポーツを学ぶこと」に関する研究を行っています。近年、人間とスポーツの関わりは、「する(行う)」だけでなく、「みる」「支える」「知る」「つくる」など多様化しています。スポーツ教育学研究室では、「スポーツを学ぶこと」の意味を固定的に捉えるのではなく、それぞれの地域における「人々とスポーツの関わり方の現実」を捉えながら、指導のあり方や環境づくりのあり方などを考察していきます。学校や地域をフィールドとして、「スポーツを学ぶこと」について一緒に考えてみませんか?

スポーツという文化の
学びを探求しよう!



自然体験活動研究室

濱谷 弘志 Hiroshi Hamatani

研究室では、自然の中でのアウトドア活動による教育効果について研究しています。ゼミ活動として、夏は登山、ロッククライミング、冬はバックカントリースキーなどの活動を中心に、指導者として必要なハードスキル(知識・技術)、安全管理能力の向上、自然環境保護のための環境倫理習得など、実践力を身につけます。また、地域連携活動として、子どものクライミング教室、雪あそび教室なども行っています。将来、アウトドア活動の指導者や教員として学校登山を引率するような進路を考えている方をお待ちしています。

自然の中でのアウトドア
活動指導者を育てます





フィールドで学ぶ
フィールドに学ぶ

スポーツ社会学 研究室

前田 和司 Kazushi Maeta

環境問題の多くは、自然と人々の直接的な関わりが見えなくなってしまうところに原因があります。だから環境問題の解決のためには、自然と人々の直接的な関わりを目に見えるようにすることが大切です。アウトドアは、その関わりを私たちに見せてくれる文化です。しかし、アウトドアが自然と人々の関わりを必ずしも良好なものにしてくれるとは限りません。スポーツ社会学研究室では、アウトドアを通して自然と社会の関わりを良好なものにするにはどうすればいいかを現場のフィールドに立って考えていきます。



北海道が誇る大自然を
通して人づくりに挑戦

野外教育学研究室

山田 亮 Ryo Yamada

野外教育は、自然の中で幅広い年齢層を対象に、組織的・計画的に教育目標をもって行われる活動です。私はその効果的なプログラムを開発することをテーマとして取り組んでいます。研究室では、実際に子どもや成人を対象としたプログラムの企画・指導の実践を行い、指導者としての専門的な知識や技術を身につけ、社会に貢献できる人材を育成しています。また、北海道でアウトドア活動をプロとして仕事をしている団体、ガイド、施設とともに、現場の最前線で実践や研究、交流を行っています。



学生インタビュー

Youは何しに岩教へ?

Why did you come to Gankyo?



You

八重 惺 颯

所属：スポーツ文化専攻スポーツ・コーチング科学コース
ゲーム分析論研究室4年
出身高校：岩手県立一関第一高等学校

Youはどうして岩見沢校に入学したの?

保健体育の教員免許が取得でき、かつ高いレベルでバスケットができる環境が岩見沢校だったからです！私はスポーツ科学的な視点から指導ができるスポーツ指導者を目指しているので、それに対して必要となる専門的なスキルを岩見沢校なら学べると感じ、入学しました。

Youは今どんな活動をしているの?

男子バスケットボール部の主将として、2年ぶりの全国大会出場を目指し、日々の練習に取り組んでいます。基本的に学生主体で活動しているので、非常にやりがいがあります！
学業面では、バスケットボールのゲームの中で起こる様々な事象について、ゼミで研究を行っています。現在は卒論のテーマを模索しているところです。
プライベート面では、長期オフの時に温泉旅行に行ったり、友達と釣りに行ったりしています。また、教員採用試験に向けて勉強に励んでいます。



インカレ出場に向けて練習中

卒業後のYouは何する予定?

保健体育の教員になる予定です。もし、体育教員になれなかったとしても、きっとスポーツに関わる仕事をしていると思います。卒業後は個人的にもまだまだバスケットを続けていきたいと思っているのと同時に、新しいスポーツにも挑戦したいと考えています！

岩見沢ってどんなところ?

大きい街ではないけど、人が良く、豊かな自然を感じる場所もあり住みやすい場所だと思います。夕焼けがとても綺麗です。冬はとにかく雪がやばいので、その覚悟と準備だけは必要ですね笑



大学でスポーツを学びたい人、待ってます！

受験を考えている皆さんへ、 Youからのメッセージ

専攻の人数も少なく、学生同士で仲良くなりやすい環境も魅力の一つです。スポーツがとにかく好きな人、大学でも部活を本気で取り組みたいと考えている人には、これ以上ない場所だと思います！

スポーツ文化専攻 入試情報

募集人員・選抜方法・配点

スポーツ・コーチング科学コース

募集人員	選抜方法	配点	
総合型選抜 (自己推薦入試)	18 小論文/90分 面接(口頭試問を含む)/15分程度	700	
一般選抜 (前期日程)	20 大学入学共通テスト 実技検査(総合運動能力検査) 面接/15分程度		
一般選抜 (後期日程)	10 大学入学共通テスト 実技検査(基礎運動能力検査) 面接/15分程度	700	1,300
		300	

アウトドア・ライフコース

募集人員	選抜方法	配点	
総合型選抜 (自己推薦入試)	2 小論文/90分 面接(口頭試問を含む)/30分程度	700	
一般選抜 (前期日程)	7 大学入学共通テスト 実技検査(基礎運動能力検査) 面接/15分程度 小論文/90分		
一般選抜 (後期日程)	3 大学入学共通テスト 実技検査(基礎運動能力検査) 面接(口頭試問を含む)/30分程度	700	1,300
		100	
		500	

各選抜の実施方法等

総合型選抜 (自己推薦入試)

事前に提出する「自己推薦書」、「調査書」、コースごとに指定される活動に関する書類と、試験当日に課す「小論文」、「面接(口頭試問を含む)」により総合的に評価し、コースごとに総合得点の高得点順に選抜します。

参考: Q&A (p.50)

- 「自己推薦書」は、入学後にどんな活動を実践していきたいかの具体的な計画や、スポーツやアウトドア活動等による地域活性化についての考え方を記載する様式となっています。
- 活動に関する書類は、スポーツ・コーチング科学コースは「スポーツに関する活動実績書」、アウトドア・ライフコースは「自然体験活動、野外教育、環境教育、アウトドア活動に関する活動歴」を提出します。

参考: Q&A (p.50)

一般選抜

■ 大学入学共通テスト

必要科目は国語・外国語・数学・地歴公民・理科の5教科5科目又は6科目です。

■ 前期日程

【スポーツ・コーチング科学コース】

参考: Q&A (p.50)

1. 実技検査…実技2(総合運動能力検査)
必修種目: 陸上競技(持久走、跳躍)、器械運動(マット運動、鉄棒運動)
選択種目: バレーボール、硬式テニス、バドミントン、サッカー、バスケットボール、ハンドボール、硬式野球(男子)、ソフトボール(女子)、剣道、スキー競技(アルペン)、スキー競技(クロスカントリー)から1種目
2. 面接

【アウトドア・ライフコース】

1. 実技検査…実技1(基礎運動能力検査)
ボール投げ、連続交互跳び、方向変換走の3種目
2. 小論文
3. 面接

■ 後期日程

【スポーツ・コーチング科学コース】

1. 実技検査…実技1(基礎運動能力検査)
ボール投げ、連続交互跳び、方向変換走の3種目
2. 面接

【アウトドア・ライフコース】

1. 実技検査…実技1(基礎運動能力検査)
ボール投げ、連続交互跳び、方向変換走の3種目
2. 面接(口頭試問を含む)

過去の入試問題

【令和5年度総合型選抜(自己推薦入試)小論文】

【問題】

下記の文章^{a)}を読んで、学校部活動の地域移行について、あなたの意見を750～800字で述べなさい。

【令和5年度一般選抜(前期日程)アウトドア・ライフコース 小論文】

近年では、環境問題の解決に際し、それぞれ異なる思惑や立場の人たちがいることを前提に話し合って合意形成[※]することが重要とされている。しかし、環境問題においては「利害関係者の思惑が異なるため意見が一致せず、解決策が見出しづらくなる状況」も起こりがちになっている。

【問題】

合意形成に関する次の文章^{a)}を読み、後の問1と問2に答えなさい。

- 問1 ばく(男二)^{a2)}・光男^{a2)}・明男^{a2)}・和也^{a2)}の「困っていること・考えていること」を簡潔にまとめ、それぞれ20字程度で述べなさい。
- 問2 あなたが問題文にある事例の解決を促す立場にある場合、あなた自身が解決策を提示するのではなく、全員が話し合って納得する形で問題を収束させるためにどうするかを600字～700字で述べなさい。

※合意形成…誰かが一方的に我慢するのではなく、みんなが納得できるような解決法を得ること

(※1) 文章部分は、著作権に関する手続きが完了次第、ホームページで過去問題として掲載される予定です。

(※2) 文章中の登場人物の名前

過去の試験問題は本学ホームページの「入試情報」で公開されています。

<https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/faculties/exam/data/>



基礎運動能力検査とは

以下の3種目全てを課し、基礎的な運動能力を測ります。

- ボール投げ(図1)
両足を揃えた状態から、バスケットボールを両手で保持し、後頭部から頭上を通過させながら、全身を使って前方に投げる。
- 連続交互跳び(図2)
両脚で前方に踏み切った後は、左右どちらかの脚を交互に使用し、立ち5段の跳躍を行う。
- 方向変換走(図3)
スタートの合図後、図のように指定された数字の順に、1辺6mの正方形の頂点に置かれた標的を手で接触し、ゴールする。

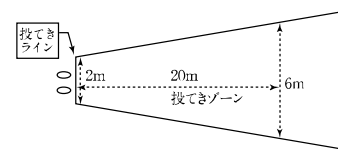


図1 ボール投げ

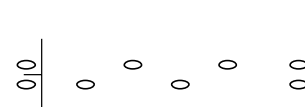


図2 連続交互跳び

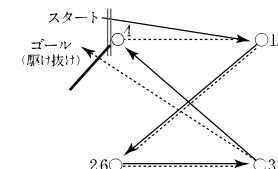


図3 方向変換走(スタート、ゴール、接触の順番)
実線(—): 1周目 破線(---): 2周目

※入試情報ページに記載の内容は前年度実施した内容であり、今後変更になる可能性があります。
必ず大学ホームページや、「入学者選抜要項」「学生募集要項」で最新の情報を確認してください。